

## 日本痛風・尿酸核酸学会 理事会議事録

開催日時：令和4年1月31日 17:30～19:50

会 場：ZOOM 開催のため各自勤務先等

(1) 金子理事長が議長となり午後17時30分に開催を宣言した。

理事17名中 出席14名 委任状3名

本日の出席状況は上記の通りで、定款第31条に基づき本理事会は成立する事が宣言された。

出席者（敬称略）

（理事）金子 希代子、市田 公美、久留 一郎、安西 尚彦、  
内田 俊也、四ノ宮 成祥、津谷 寛、土橋 卓也、  
箱田 雅之、細山田 真、益田 郁子、森崎 隆幸、  
山内 高弘、山田 裕一

（監事）板倉 光夫、嶺尾 郁夫

（第56回会長）荻野 和秀

（若手委員長）阿部 弘太郎

(2) 続いて予め配布された議案資料に沿って以下の通り審議が行われた。

【第1号議案 令和3年（2021年度）決算・監査報告】細山田先生、板倉先生

細山田庶務幹事より配布された決算書に基づき令和3年決算内容の説明があった。経常収入が6,086,214円あり、正味財産は56,568,447円になったとの報告があった。その後、板倉監事より監査報告があり業務執行状況や事務手続などは適正に行われているとの報告があった。議長が議案1の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て決算報告は承認された。

【第2号議案 令和4年（2022年度）予算案】細山田先生  
引き続き細山田庶務幹事より配布の予算案に基づき令和4年の予算内容

の説明があった。2月にガイドラインの追補版が出版されることから印税で350万、転載利用料金で450万計上している。あとはおおよそ例年通りの予算で組んでいるとの説明があった。議長が議案2の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て予算案は承認された。

**【第3号議案 第57回総会（2024年開催） 会長選出】**金子理事長  
金子理事長より第57回総会の会長候補者として鳥取赤十字病院 副院長の荻野和秀先生を推挙することが提案され、出席者全員の賛意を得て承認された。荻野先生より伝統のある学会総会なので一生懸命つとめさせていただきたいとの挨拶があった。

**【第4号議案 令和3年（2021年度）学会賞受賞者決定報告】**金子理事長  
令和3年度学会賞は名誉会員・理事・評議員より推薦された候補者を選考委員会で審議し、防衛医科大学校 分子生体制御学 講師である中山昌喜先生に決定したことが金子理事長より報告された。

**【第5号議案 令和3年度優秀論文賞受賞者決定報告】**市田先生  
前年1月～12月の間に本学会機関紙に掲載された痛風と尿酸・核酸代謝に関する原著論文及び症例報告の中から選考委員会で審議の結果、優秀論文賞は福井大学 此下忠志先生、東京慈恵会医科大学 本田康介先生、同じく東京慈恵会医科大学 栗山哲先生に決定したことが市田編集委員長より報告された。

**【第6号議案 編集委員会報告】**市田先生  
市田編集委員長より下記の通り報告があった。

1. 令和3年のJ-Stageアクセス数は月平均27,090アクセスだった。後抄録を廃止し、プログラム抄録集をPDF掲載にしたことで、一アクセスで最後まで閲覧可能になったためアクセスという意味では少し変化があったとのこと。

2. 令和3年学会誌の掲載論文数は総説、原著あわせて14編だった。順調に推移している。

3. 転載利用料金が他学会と比較すると安価だったため、料金の見直しを行い、当学会ガイドラインの規定を簡略化してそのまま踏襲することとなった。編集委員会で承認され、理事長に許可を得て確定した。

4. 優秀論文賞内規の改定を行った。第1条の学会の名称変更に伴う部分や第3条の著者自身が審査に関与しない等。副賞の金額は前回の理事会で

すでに承認されている。議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て承認された。

5. 学会総会における優秀演題賞選考内規案を作成した。学会の活性化およびメディカルスタッフの会員増加を目的として作った。内規には学会総会長が弾力的に運用できるように「原則として」という文言を第4条の1)に入れた。多数決により内規案をこのまま採用することが決まった。すなわちエントリー制とし、可能であれば1つのセッションにまとめ、最優秀演題賞を発表で1つ選定する。次期総会長の四ノ宮先生より、初めての試みなので課題は残るかもしれないが一度やってみますとの心強い言葉をいただいた。

#### 【第7号議案 ガイドライン広報委員会報告】内田先生

内田委員長より1年間の活動が報告された。一点目は会員専用ページを作り、ガイドラインやキースライドを会員限定で公開した。二点目は新型コロナウイルス感染拡大で近年市民公開講座が開催できないので、YouTubeで痛風と高尿酸血症の動画を作った。採用はしなかったが学会名の入ったバーチャル背景も作った。一般の患者さんに分かりやすいように委員の先生方にクリニカルクエスチョン毎に動画を作ってもらい、事務局の三橋さんにアナウンスを入れてもらった。最終的に内田委員長と三橋さんが編集をし、委員・理事への限定公開を経て一般公開し、本日現在で246回の視聴回数で8つの「いいね」を取得している。

アンケートの活用状況については浜田先生に纏めていただき、今回の総会で発表していただく予定。

#### 【第8号議案 中国語翻訳版に関する経費について】内田先生

中国語版について去年の4月で完成していたが、天津科技翻訳出版社と翻訳者との間に、(出版費用の5万円の請求が翻訳者にいくという)行き違いがあり、その問題について、診断と治療社とタトル・モリエージェンシー、中国出版社、本学会とで協議してきた。この件について、学会が相談してきた税理士、弁護士より解決策として3つの条件が提案された。

- ①GL 中国語翻訳版出版に関して5万円の「出版協力金」を学会から支出することを理事会・総会で認可いただくこと
- ②GL 中国語翻訳版出版に関して、①以外の支出に学会が応じる必要は将来に亘ってないことを確認すること
- ③①の支出後にGL 中国語翻訳版が180日以内に出版されない場合、同額を学会に返還すること。

この3つの条件が理事会・総会で認可されたのち中国翻訳出版社に確認する予定であるとのこと。出版協力金5万円を学会から内田先生に支払うため、③の場合同額を内田先生から学会に返還することとなる。内田先生が2月から名誉会員になられるのでCOIの観点からも問題ないと言われている。議長が賛否を諮ったところ、承認された。

**【第9号、13号議案ガイドライン改訂委員会報告】** 久留先生  
追補版について今年2月中旬に発刊予定である。ほぼ原稿が仕上がっており、後は修正の段階に入っている。内容は大きく2つに分かれており、浜田先生のモニタリングの結果と、痛風・高尿酸血症治療薬ドチヌラドについてである。

**【第10号議案 ダイバーシティ推進委員会（2021年2月発足）報告】**

金子理事長

昨年の2月に発足し3回委員会を行った。まず男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー会員として入会した。2021年4月に学会員を対象に学会参加に関するアンケートを送って、結果を会員専用のページに掲載した。女性学会員と女性の評議員が少ないという声や、託児室を併設してほしいという声などがあつた。津谷会長の第55回から託児所の併設を予定していたがオンラインになってしまったので、第56回の四ノ宮先生の時をお願いしたい。また若手委員会と協力して、隔年でその委員会のセッションを1つ作っていく予定。ただし隔年とすると、西と東で内容が一緒になってしまうため、採用しない年があっても良いとのこと。また、ニーズ調査アンケートは今回学会参加者を対象に行うこととし、準備を進めている。

**【第11号議案 若手委員会（2021年5月発足）報告】** 阿部先生

目的は若手を中心として活動の場を増やし、学会を活性化していくこと。昨年は6回活動を行い、津谷先生の総会で若手のシンポジウムの場を作っていただいた。次年度の活動としては色々な分野の先生がいらっしゃるので、お互い弱い点強い点を補いながら、論文を執筆したい。また関連学会とのジョイントシンポジウムや、コロナが落ち着いたら若手とベテランが交流する場がほしいと思っている。学会の理事や教授クラスの先生から、優秀な若手研究者がいれば推薦してもらえるように働きかけたい。

**【第12号議案 ありかた委員会報告】** 金子理事長

若手委員会とダイバーシティ推進委員会で総会時1年おきに1つのセッ

ションを作っていきたいが、行わない年があっても良いと思うので臨機応変に取り組んでいきたい。

富士薬品より当学会の若手研究者を支援したいと打診があり、若手研究者賞内規案および若手研究助成募集要項を作った。資金の流れは富士薬品からの寄付とし学会から毎年趣意書を出して公募し申請してもらうスタイルにする。議長が賛否を諮ったところ、承認された。

ダイバーシティ推進委員会よりブレイクアウトルームを使ったオンライン懇親会を企画している。津谷総会長から、オンライン開催となってしまう懇親会の機会がなくなってしまったので有り難いとの感謝の言葉があった。

**【第13号議案 WEB 講演会企画～新しいガイドライン作成方法に関する最近のトレンド講演会～】 久留先生**

2016年のバージョンからシステムアップし2020年にMindsの診療ガイドラインの作成方法が変わっているので継続的に方法論について理解していく必要がある。会員にガイドライン作成方法が変わったことを共有するために最近のトレンドのWEB講演会を行いたい。季節は夏頃の日曜日。京都大学の中山先生、静岡県立大学の佐藤先生にお願いする予定。その上でガイドライン第4版の作成に取り組みたい。内容について議長が賛否を諮ったところ、承認された。

**【第14号議案 認定痛風医資格制度委員会報告】 谷口先生 代理 金子理事長**

昨年はWEBによるオンデマンド試験を行った。監督は谷口先生と三橋さんで、2名が試験に挑んだ。認定痛風医の申請は新規2名および更新20名から出され、これについて議長が賛否を諮ったところ、承認された。第11回教育研修会を2月～3月に受け付け、視聴期間を4月中にするとのこと。

**【第15号議案 役員改選】 金子理事長**

(i) 理事の改選

任期満了による退任1名 内田俊也理事

新規選任3名 大山博司評議員、荻野和秀評議員、森崎裕子評議員

(ii) 評議員の改選

任期満了による退任2名 飯笹泰藏評議員、日高雄二評議員

本人からの辞退1名 浜口朋也評議員

新規選任1名 寺本 圭先生

- (iii) 名誉会員の承認 内田俊也理事
- (iv) ガイドライン広報委員長 市田公美副理事長

議長が改選案の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意により原案通り承認された。

**【第16号議案 庶務幹事報告】 細山田先生**

会員数は557名でそのうち会費未納90名。コロナ関連の情報を掲載したこともあり、HPへのアクセスが昨年度より1.45倍増加。学会の収支について2019年から収入が増えており、現在剰余金は5000万円程度ある。賛助会費は年々減っているが、それが寄付金に変換しているケースもある。収入が伸びている原因はガイドラインの転載許諾料金や、総会時の共催セミナーの返戻金が大きなウエイトを占めている。学会誌は電子化して広告がなくなったが、転載許諾料金で以前と同等に近い収入になった。転載許諾料金の改定によってさらに収入が見込めると思う。交通費謝金に関する内規について接遇規定が2年前に決まったのでそれを反映している。議長が交通費謝金に関する内規について賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意により原案通り承認された。

**【第17号議案 第56回日本痛風・尿酸核酸学会総会長挨拶】 四ノ宮先生**  
今回のテーマである「知の探淵へ」を英語にして縦に読むと「URATE」となっている。まだコロナの状況が読めないので何とも言えないが願わくは現地開催したい。代案としてはオンラインを考えているがもう少し状況をみて決めたい。学会のプログラムの中にダイバーシティ推進委員会や若手委員会のセッションを入れ、優秀演題賞のこともトライしてみる。HPが立ち上がり次第案内したい。

**【第18号議案 第55回日本痛風・尿酸核酸学会総会長挨拶】 津谷先生**  
現地開催をしたかったが、オミクロン株の影響で難しくなり、限られた状況になってしまったが、もう準備もできているので体調に気をつけながらやっていきたい。ご協力いただいた理事の皆様には感謝申し上げたい。

**【第19号議案 その他】**

最後に定年で名誉会員になられる内田先生より当学会および役員の皆様に対する感謝の挨拶があった。

以上で理事会の審議はすべて終了し、議長は 19 時 50 分に閉会を宣言した。

この議事録が正確であることを証する為、理事長及び監事が記名捺印する。

令和4年 1月 31日

理事長 金子 希代子 

監 事 板倉 光夫 